

強震対応マニュアル（学類棟・授業中）

これは完成版ではない。気づいた点があれば、みんなで話し合ってどんどん改善しよう。

0. このマニュアルの対象となるケース

- 1) 本能的にヤバイと感じるほど強く揺れたとき
- 2) 揺れの後で停電したとき
- 3) 館内放送などで避難指示が出たとき（←期待しない方がよい）

1. 直後の行動（数字は優先順位）

- 1) ドアを開けた状態で固定する（出口の確保）・・・できれば屋外に出るドアも
- 2) 靴のかかとを踏んでいる人はちゃんと履く
- 3) 上を見る（物が落ちてこない？）、周りを見る（倒れそうな棚や割れそうな窓ガラスは？）
- 4) 下宿の鍵、携帯、上着（冬季）を身に付ける
- 5) 揺れ始めたらどこかにしっかり掴まる。出口付近の構造物に寄り添う。

2. 屋外への避難

- 1) 学類棟 → 体育館 または 第三エリア北側駐車場
- 2) 生農棟 → 体育館 または 本部棟北側駐車場

建物の中よりも、建物と建物の間や渡り廊下、大きなガラス面が危険である。

出入り口付近では、剥がれた外壁などの落下物に注意する。

3. 避難後の行動

- 1) **近くの教員に相談しても良いが、しなくても良い。指示を待たないこと！**

できるだけ多くの友人に自分の状況を伝えた上で、安全に注意しながら帰宅し、そのまま自宅待機する。移動はできるだけ複数で。消灯した信号や、道路の隆起・陥没に注意する。
帰宅後は、断水、停電に備える（水が出る間に貯留、懐中電灯等の用意）

- 2) **メールが通じたら状況報告（しなくても良い）**

①自分と家族の安否、②現在の居所、③今後の移動予定（帰省、友人宅に避難、等）を、
コース主任に（できれば副主任とクラス担任にも）報告する。また、わかる範囲で、友人
の状況も報告する。念のため災害用伝言板サービスの使い方を確認しておこう。

これは訓練ではない。リアルなサバイバルである。甘く考えないこと。

解説

0. このマニュアルの対象となるケース

避難すべきかどうか迷ったときは、停電の有無で判断するのが一番わかりやすい。

停電が起これば、かなり深刻な状況ということです。

1. 直後の行動

警告：大学から配布された「地震発生時の対応」というドキュメントには、

- ・ 地震発生時は「あわてず、まず身の安全」を確保 ⇒ 机の下等へ
- ・ 地震の揺れが収まった後 ⇒ 強い揺れだった場合、落ち着いて屋外に避難
- ・ 強い揺れの地震の後には余震が来る可能性がある ⇒ 余震に警戒

とありますが、こんな具体性のないマニュアルを信じていたら死にます。死にたくなかったら、自分の頭で考え、行動して下さい。

1) ドアを開けた状態で固定する（出口の確保）

最優先です。ドアを椅子や消火器で固定できるよう、あらかじめ準備しておく必要があります。また、できれば、部屋から外へ出るドアだけでなく、建物から外へ出るドアも開放して下さい。

2) 靴をちゃんと履く

意外と気付かないのが足下の確保です。阪神大震災では、裸足で屋外に出て足を怪我し、その後の避難に支障をきたしたケースが数多く報告されています。

3) 上を見る（物が落ちてこない？）、周りを見る（倒れそうな棚や割れそうな窓ガラスは？）

バカの一つ覚えみたいに机に潜るのはやめましょう。教室によっては「もぐり込めない机」もあります。机下に潜るのが効果的なのは、天井や電灯などが落下してくる場合です。その可能性がないなら、転倒の可能性のある重量物（高い棚や試験機）や、割れて飛び散る可能性の高い窓ガラスから離れ、出口に近い「構造体（柱など）」に身を寄せて本震をやり過ごす方が安全です。

4) 鍵、スマホ、上着（冬季）を身に付ける

東日本大震災では、揺れが収まった後、何も考えずに屋外に出た職員や学生が多数いました。しかし、いったん屋外に出たらしばらくの間は屋内には入れません。自転車や下宿の鍵もスマホも持たずに、生き延びることができますか？

時間が許す限り、鍵、スマホ、上着等、避難後に必要となる最低限のものを身に付けましょう。

5) 揺れ始めたらどこかにしっかり掴まる。出口付近の構造物に寄り添う。

建物が崩壊した場合、机の脚で天井を支えられるはずがありません。くどいようですが、机下にもぐるのは落下物から身を守るためです。天井からの落下物がない場合には、開口部（大きな窓ガラスなど）から離れ、コンクリートの柱などの「構造体」の近くにいた方が安全です。

2. 屋外への避難

避難場所までの経路は、最短距離が良いとは限りません。たとえば、小幡谷の実験室の場合、最短で避難場所に移動するためには、建物に挟まれた狭い通路や渡り廊下を通る必要がありますが、東日本大震災時は、その経路上に外壁タイルやコンクリート片が多数落ちていました。この場合、屋外を通るよりむしろ、耐震性の高い建物内を通った方が安全です。

自分が今いる場所からどうやって避難するかを、いつも気にして下さい。

3. 避難後の行動

当分の間、互いに連絡が取れなくなることが予測されます。避難後はまず、互いに声をかけ、できるだけ多くの人に「そこに自分がいた」ことを知らせましょう。

東日本大震災では、しばらくの間、電話もメールも不通になりました。つながらないネットに何度も接続を試みるのはバッテリーの無駄です。次にいつ充電できるかわからないのですよ。

東日本大震災では、夕方に地震が起こり、信号や街灯が消灯しました。この場合、暗くなる前に出発しないと帰路の安全が確保できません。大学からの指示を待たずに自分で判断して下さい。一方、夜間なら、無理に帰宅せず、学内の安全な施設（体育館など）に留まる方が安全です。

大地震の際には、いったん帰宅する（ばらばらになる）と、互いに連絡が取りにくくなります。万が一下宿や自宅が倒壊し、居場所がなくなったときに備えて、①大学内の安全な建物、②友人や教員の自宅、③近隣の公園、などの「緊急時の集合場所」を決めておくのも有効です。

4. 帰宅後の行動

生き延びるのが最優先です。

大地震の際に、通常の授業や行事が中止、延期されることは明らかです。特に指示がない限り、登校する必要はありません。無用の外出や登校は二次災害の原因になります。

通信が復旧した後で、だれに何を連絡すべきかをあらかじめ確認しておいて下さい。具体的には、自分の安否だけでなく、当面の居所や帰省の予定、実家の被災状況、友人の消息等、可能な限り多くの情報を、指示がなくても関係する教員（コース主任、クラ担等）に連絡して下さい。

念のため、コース主任、副主任の携帯番号とアドレスを記録しておいて下さい。

主 任：

副主任：

強震対応マニュアル（木質材料工学研究室）

これは完成版ではない。気づいた点があれば、みんなで話し合ってどんどん改善しよう。

初期微動を感じたとき（数字は優先順位）

1. ドアを開ける：出口の確保
2. 電熱機器のスイッチを切るか、コンセントを抜く
3. ガス、水道を止める
4. サンドルは靴に履き替える
5. ガラス器具庫、薬品庫の扉を閉める
6. 机上の薬品やガラス器具を片づける

本震に備える

棚や試験機から離れ、出口付近の大きな柱に寄り添う

屋外への一時避難（場所によって異なる）

- ・ C 棟居室 → 駐車場 → 体育館 または 本部棟北側駐車場
- ・ E 棟実験室 → 学類棟 2F → 駐車場 → 体育館 または 本部棟北側駐車場
- ・ 2D 棟実験室 → 学類棟 2F → 駐車場 → 体育館 または 本部棟北側駐車場

しばらくの間、再入室できない可能性がある。そのまま帰宅することを想定し、
①下宿の鍵、②携帯、③上着（冬季）、④備え付けの懐中電灯（夕方～夜間）を持ち出そう。

建物の中よりも、建物と建物の間や渡り廊下、大きなガラス面が危険である。
出入り口付近では、剥がれた外壁などの落下物に注意する。

一時避難後の行動

大学からの指示を待たないこと！

できるだけ多くの友人や教員に状況を伝えた上で、安全に注意しながら帰宅し、そのまま自宅待機。移動はできるだけ複数で。消灯した信号、道路の隆起や陥没に注意する。
帰宅後は、断水、停電に備える（水が出る間に貯留、懐中電灯等の用意）
災害用伝言板サービスの使い方を確認しておこう。

電子メールが通じたら、実家と指導教員（and/or クラス担任）に状況を報告

①自分と家族の安否、②現在の居所、③今後の移動予定（帰省、友人宅に避難、等）
わかる範囲で、友人の状況も報告する。